

## 児童サービスとビジネス支援 ～キャリア探求学習支援～

野村 富貴子  
阪南市立図書館

### 1. はじめに

私の勤務する阪南市立図書館では、ビジネス支援はサービスの一環として行われていて、ビジネス支援サービスコーナーがない。ビジネス支援のはじめの1歩として、現在の私の担当である児童サービスからビジネス支援をしていくことを考察した。

### 2. 阪南市の概要

#### 2-1 阪南市の地理的特徴

阪南市は、大阪府の南部に位置し、面積は、36.17平方キロメートルで、泉南地域で最小面積の市である。北は大阪湾に面し、南は和泉山脈と接しており、地勢的には、市域の約60%が和泉山脈の山林となっている。市街地や住宅地を囲むように、波静かな海と緑豊かな山林が近接しているため、海・山を中心とした自然環境に恵まれた市で、漁業や農業、地酒造り等の地場産業、豊かな自然や多彩な歴史・文化等の地域資源を有しているまちである。

#### 2-2 阪南市の住民の状況と課題

現在の人口は51,919人、世帯数は24,094世帯となっている。人口は、2000年58,193人をピークに減少し続けている。(阪南市統計データ 2022年4月末日) (1) 人口減少、少子高齢化が現在の阪南市の課題である。

#### 2-3 阪南市の教育・文化的環境の特徴

2022年4月現在、幼稚園4園、小学校8校、中学校4校、高校1校がある。図書館は文化センターとの複合施設(サラダホール)であり、市民の芸術文化活動の振興と生涯学習活動を支えている。

### 3. 阪南市立図書館基本方針と課題

#### 3-1 阪南市立図書館基本方針

1. 暮らしに役立つ図書館
2. 知的好奇心に応える図書館
3. 子どもの可能性を伸ばす図書館
4. 協働と連携を進める図書館

### 3-2 阪南市立図書館の課題、ビジネス支援の現状

- ・利用者の多くは、高齢者世代と幼児から小学生の親子である。中学、高校、大学生、社会人等の10代、20代の若者の利用が少ない。
- ・ビジネス支援は、サービスの一環として行われている。ビジネス支援コーナーがない。

### 4. 児童サービスからビジネス支援をはじめ

阪南市の課題は、少子高齢化であること、阪南市立図書館の現状の課題は、若者の利用者が少ないこと、阪南市立図書館のビジネス支援サービスは、ビジネス支援コーナーがなく、サービスの一環としているという点から、阪南市立図書館基本方針をふまえ、児童サービスからビジネス支援をはじめめることを提案する。

### 5. キャリア探求学習を支援する ～想像してみよう、自分の働く姿～

阪南市内には、高校が1校あるが、2023年度以降の新入生募集を停止し、最後の学年が卒業する2025年3月末日に閉校することになっている。将来的には、高校からは市外に通学することになる。その事を考慮して、小・中学校のキャリア探求学習を重点的に支援する。学校教育担当部署、生涯学習担当部署、商工会議所と連携し、阪南市内の地場産業・漁業・農業など多様な職業を紹介し、将来大人になって働くことを想像できるような様々な取り組みを考え実施していくことで、将来阪南市で働いて住み続けていくことも想像出来るようにしたい。その結果、人口の流出を抑えることも出来るのではないかと思う。

#### 5-1 職業体験のサポート

市内の中学校では、毎年、職業体験が実施される。阪南市立図書館にも、毎回5名ほどの中学生を受け入れている。その時期に合わせて、阪南市内のお仕事紹介やお仕事図鑑等の本の特集展示をする。特集展示だけでなく、学校向けにキャリア探求学習の本を集めたセットを作り、団体貸出を行う。特集展示や団体貸出から、どんな仕事があるかを知って、職業体験の職業を選び、働く経験をすることで、より一層学びが深まるように支援する。また、学校と漁業・農業・地酒作りなどの地場産業と連携・協力し、子どもたちの職業体験、見学の感想や写真、スケッチ、自由研究などの取り組みを図書館に展示して紹介することで、市民にも広く地場産業に関心を持ってもらう。

#### 5-2 講演会「キャリア探求学習～お仕事のおはなし聞かせて！～」

市内の漁業、農業、様々な地場産業、飲食店、スーパー、市役所で働く人、教員、医療関係者、研究者、専門家、警察官、消防士等、どんな仕事をしているかの講演会をシリーズで実施する。その際、その職業の特集展示をする。また、講演内容を冊子にまとめ、「キャリ

ア探求学習～お仕事のおはなし聞かせて！～」として配布する。講演の対象は、限定せずに開催することで、ビジネス支援サービスのPRにもなるようにする。

### 5-3 消費者教育の支援

成年年齢を18歳に引き下げることとする「民法の一部を改正する法律」は、2022年4月1日から施行された。(2)民法の成年年齢には、一人で有効な契約をすることができる年齢という意味と、父母の親権に服さなくなる年齢という意味がある。成年年齢の引下げによって、18歳・19歳の成人は、親の同意を得ずに、様々な契約をすることができるようになる。例えば、携帯電話を購入する、一人暮らしのためのアパートを借りる、クレジットカードを作成する、ローンを組んで自動車を購入するといったことができるようになる。また、親権に服することがなくなる結果、自分の住む場所(居所)や、進学や就職などの進路決定についても、自分の意思で決めることができるようになる。そのほか、10年有効パスポートの取得や公認会計士や司法書士などの国家資格に基づく職業に就くこと(資格試験への合格等が必要)、性別の取扱いの変更審判を受けることなどについても、18歳でできるようになる。さらに、成年年齢を18歳に引き下げた場合には、18歳・19歳の成人は、未成年者取消権を行使することができなくなるため、悪徳商法などによる消費者被害の拡大が懸念されている。そのため、図書館でも、小・中・高等学校等における消費者教育の充実を支援し、さらに自分で仕事を選択し、自立していくことを支援するサービスを行う。

- ・消費者教育に関して本の特集展示し、ブックリスト、パスファインダーを作成する。
- ・契約の重要性、消費者の権利と責任などを学ぶ講座や弁護士から実際に契約書の書き方、注意すべき点等を教えてもらう内容の講座を実施する。
- ・ファイナンシャルプランナーによる、子ども向けマネー教育講座を実施する。

### 5-4 学校へ出張ブックトーク

職業やお金、消費者教育に関してなど、小・中学校で出張ブックトークを行う。

### 5-5 児童室に、キャリア探求学習コーナーを作る

私は、絵本専門士でもあるので、仕事・働くことについて考え想像できる絵本や、読み物・知識の本を集めたキャリア探求学習コーナーを児童室に作り、幼児期から、働くことを楽しく想像できるようにする。興味をもった職業に就くためには、どのような勉強をしていくのかという道筋が見えるような資料も一緒に展示する。

### 5-6 多文化共生社会

多文化が共生する社会における図書館の役割は、とても大きいと考えている。私自身、以前夫の海外赴任に帯同して、タイのバンコクとアメリカのサンディエゴで数年間暮らした。

アメリカでは、子どもの通う学校の隣に公共図書館があり、たくさんの宿題、特に調べ学習は、ライブラリアンに支援してもらった。ライブラリアンは、拙い英語を話す日本人の私たちに偏見も差別もなく、とても丁寧に対応し、助け、支えてくれた。豊田講師の「アメリカ公共図書館サービス最新動向」の講義の中で話された、公正「EQUITY」なサービスを受けることができた。その時のライブラリアンに今でも感謝している。その感謝の気持ちが私の司書としての土台である。日本にもたくさんの外国人がいる。町でさまざまな国の人々を見かけることが多くなってきた。いわゆる「グローバル社会」を生きる私たちにとって、異なる文化を互いに認め合うことが求められている。子どもころから世界各国の人々の暮らしなど異文化を知り、自分が暮らす国や地域の文化を見つめ直し、世界に目を向け、理解を深めて、人と人が認め合い、共に支え合い、国、民族、人種、習慣などの違いを豊かに活かし、共に生きる地球市民として暮らし働いていくことを支援するサービスを展開していきたい。

令和3年度 阪南市学校園教育基本方針（阪南市教育委員会）(3)

#### 【C 外国語(英語)教育の充実を図る】

「\* 英語に親しみ、楽しんで英語を使う子どもの育成

\* 英語を使ってコミュニケーションを図ることができる力の育成」

この方針に基づいて、小・中学生を中心対象とし英語多読資料の団体貸出をして、英語教育支援をしていく。また、Over Drive 電子図書館を開始したので、英語の資料を充実させて、教員向け授業支援を行い、活用してもらう。

#### 5-7 GIGA スクール構想と Society5 に向けて

令和3年度 阪南市学校園教育基本方針（阪南市教育委員会）(3)

#### 【B 阪南市 GIGA スクールビジョンの実現に向けた取組を推進する】

「\* GIGA スクール構想における ICT 機器の活用を取り入れた授業の改革

・ 1人1台端末を活用した、双方向型の授業、一人ひとりの理解度により選択できる個別学習、多様な考えを活かし深めることができる協働学習を実施する。」

この方針により、ICT 活用が進んでいる。今後、Society5「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」(4) に向けて、一層情報活用能力が重要となってくる。教員や保護者、子ども向けの情報モラル、著作権等の講習や、専門家を講師にして、ICT 化に対応する ICT 活用方法等の様々な講習会を開催する。

#### 5-8 高校生ビジネスプラン・グランプリの紹介・メディアリテラシーワークショップの実施

・ 高校生ビジネスプラン・グランプリを紹介する展示をして、学生でも、問題意識を持つことでビジネスプランをつくれる、そしてそのことが、将来へのあらたなビジョンとなるとい

うことを提案する。

・小・中学生向けメディアリテラシーワークショップを実施する。内容は、図書館司書がファシリテーターとなり、地域の課題を一緒に考え、どのように解決していくかを図書館資料やタブレットを使い、考え、意見をまとめることで、メディアリテラシーを支援する。その内容を展示することで、大人も地域の課題を考える機会とし、ビジネス支援サービスにつなげていくことができるようにしたい。

おわりに

2022年2月26日の「NHK NEWS おはよう日本」(5)で「アメリカ・〈生理の貧困〉解消を！女子学生の訴えから支援策が実現」というニュースが流れていた。学生が問題意識を持ち、訴えることで、市長始め、議会を動かし、条例が成立し、デパートやホテル等の公共のトイレに生理用品を常備するという支援策が実現した。日本でも、自治体が生理用品を配布するなどの動きが各地に広がっている。2022年3月4日の毎日新聞・朝刊14面のくらしナビ「インフラとしての生理用品」(6)という記事によると、生理に関するムーブメントをリードした谷口歩実さんは、大学在学中に署名キャンペーンを始め、その後任意団体「#みんなの生理」を設立し共同代表を務め、昨年12月には、東京都の公共施設に生理用品の設置を求める署名と要望書を都知事に提出した。

幼いころから、様々な職業を身近に感じ、世界に目を向け、将来働く自分を想像し、学びを深めていくことで、自分で課題をみつけ、解決するためにはどうしたらいいかを考え実践していく力をつけていくように、図書館は、児童サービスにおけるビジネス支援のはじめの一步としてキャリア探求学習の支援を実践し、ひとつずつ開けていく未来への扉となるビジネス支援をしていきたい。

今回、様々なキャリア探求学習の支援サービスを提案したが、児童サービスにおけるビジネス支援はこれからはじまる。できることから一つ一つ実践していこうと思う。

現在、私たち家族は、アメリカのライブラリアンから受けた支援を土台として、日本で学び働いている。先日、幼稚園の図書館見学の際に、おはなし会のあと、子どもたちに「小学校に入って、また来ても、お話してくれる？」と聞かれた。「みんなが小学生、中学生、大人になってもいるから、いつでも来てね。」と答えた。成長していく子どもたちを見守りつつ、大人になっても、「課題解決するために、図書館に相談しよう！」と思える土台を作っていくような支援をしていこうと思う。

豊田講師のオンライン講習で紹介された、Jill Bidenの言葉をいつも心にとめて質の高いサービスを提供できるように日々、知識と経験を積み重ねていきたい。

「あなたたちが日々やっていることの大切さを忘れないで。

ある人は、あなたのおかげで、より深く考えるようになる。

ある人は、あなたのおかげで自信をもち、立ち上がることができる。

ある人は、あなたの応援を得て、もう少し仕事を頑張れる。

そしてある人は、あなたから何が大切なのかを学び、より優しくなることができる。」(7)

<参考資料等>

(1) 阪南市統計データ

<https://www.city.hannan.lg.jp/shisei/toukei/index.html>

(2) 民法（成年年齢関係）改正 Q&A

[https://www.moj.go.jp/MINJI/minji07\\_00238.html](https://www.moj.go.jp/MINJI/minji07_00238.html)

(3) 令和3年度 阪南市学校園教育基本方針（阪南市教育委員会）

<https://www.city.hannan.lg.jp/material/files/group/29/r3kihonhoushin.pdf>

(4) 『学び合い育ち合う学校図書館づくり 新しい時代の学びのリノベーション』

稲井達也/著 学事出版 2020年

(5) 2022年2月26日の「NHK NEWS おはよう日本」

(6) 2022年3月4日の毎日新聞・朝刊

(7) 豊田恭子講師のオンライン講習資料